

最優秀賞
大分県教育委員会教育長賞

消滅集落の再生

～押尾家旧宅の古民家リフォーム～



大分工業
池田 光樹



大分工業
小野 大介

設計主旨

建設場所は、大分県北西部に位置し、福岡県との県境にしました。この中津市山国町槻木地区は、森林面積が9割を超え、15の集落が点在しており、大分県内でも、特に高齢化の進行が顕著で、消滅しつつある集落もいくつかあります。

今回私が設計した場所も、英彦山系のふもとにある

集落で、地元には大きな産業もなく、若い人々も離れ、過疎化がさらに進行していくばかりです。この問題を解決するためには、いくつかの課題があると思います。消滅集落の再生を果たすために地元産業を活かした住まい、地域内外の人々が集まる空間など、住まいを通じて人々が出会い交流を深める憩いとなる住宅を考えました。

昭和初期の農家の住まいには、うまやなどをもち、土間に面する広間を台所に用いた曲り屋などが多かったです。しかし、大黒柱や大梁など、立派な材料は希少価値があり、その材料を生かしたリフォームを考えました。

都市部から退職後の夫婦が移住（子供は独立）し、家族湯と農村民泊などとして出会うの場としての住まいを提供しました。出会いのある住まいにするためには、何度も出会うの場所としての価値を深めることだと思います。

春には野菜などの苗を植え、夏休みなど農作物を育て、秋に収穫し、その農産物を加工し、寒い時期、乾燥した晴天時に天日干しを行い、保存食を作る。また、コロナウイルスなどの流行期であれば、自宅に配送し、この場所を再認識してもらう。この槻木地区には、福岡県から近い場所にあり、サツマイモや柿の産地でもあります。春に収穫したタケノコを干したり、大きな窯でサツマイモを煮炊きし、干し芋を作ったりすることで長期保存できる食品として、味わうことができます。

今、昔ながらの生活も消えつつあり、消滅集落とともに考えてみました。



優秀賞



鶴崎工業
川上 翔士

設計主旨

【最近の生活から思うこと】

「stay home」と言われて一年が経った。ご近所との交流も少なくなり、家の中に籠ることが多くなった。閉鎖的な生活は住む場所の魅力や良さ、人とのつながりの大切さに気づく機会を減らしてしまう…。

私は3つの出会いを通して、住む場所の魅力を再発見するとともに、家族や人とのつながりの大切さに気づく住まいを考えたい。

【設計の工夫】

- ①部屋どうしの間隔をあけて、ソーシャルディスタンスの確保！離れた部屋同士は外廊下で繋いだ。暮らしながら外にでる機会を設け、地域の魅力（自然の多さ、景観の良さ）を感じられるようにした。
- ②前の道路から趣味の部屋が見えるようにした。離れていても生活の様子を感じることができ、趣味を肴に会話を弾む。

家族と住む場所に愛着を持つ 3つの出会い

～コロナ禍だからこそ考える地域と家族の魅力～

- ③デッキや趣味の部屋、子供部屋は南東側に集中させた。人の出入りを限定し、家族との距離を離すことで感染リスクを減らす。
- ④敷地内に金木庫を植え、新しい出会いを作った。金木庫の匂いは、新しい地域の匂いとして、近所の人たちと出会う。



優秀賞



大分工業
安井 太一

設計主旨

・設計の方向性

主人公の「私」の趣味はロードバイクです。光を風を匂いを五感で感じ、鼓動の高まりをリズムに変えて走りぬく心地よい時間は至福の時です。この趣味を生かした主人公の家を設計したいと思います。

・サイクリストと歩む「私」

国東半島では全国から2500人余りが集まる「ツールド・国東」が毎年開催されるなど、自転車が盛んな地域です。

・設計概要

そこで設計したのがサイクリングコースの沿線に、気軽に立ち寄り、休憩できる「サイクリング・ハブ」です。このハブを起点に、サイクリスト達に国東の山や海などの豊かな自然に溶け込みしぼしの癒しを求めたり…。また、このハブからリモート勤務をし、趣味の中に日常の勤務が存在するような新しい生活の形を経験してもらいたいと考えました。

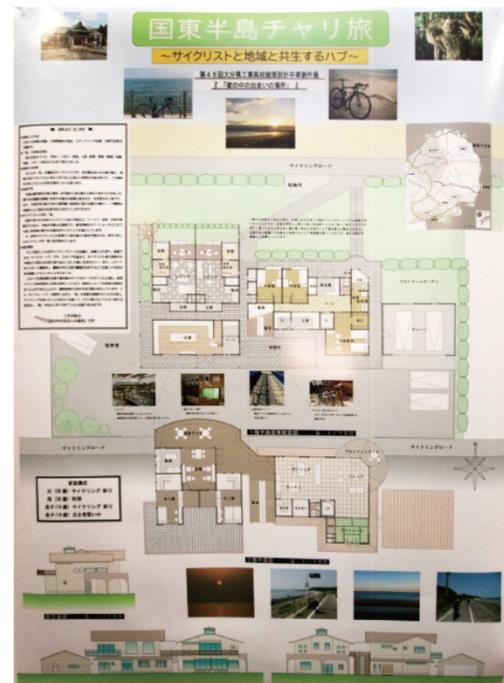
このハブは周防灘を見渡す海岸線のサイクルロードのすぐ上に立地し、展望テラスつき軽食喫茶と民宿を経営しています。併設のショップは国東の産物を買うことができるとともに、過疎地域の日常の生活支援も果たして

国東半島チャリ旅

～サイクリストと地域と共生するハブ～

います。この「サイクル・ハブ」を運営しながら、「私」の家族は地域の方々との交流と、サイクリングを楽しむ人との出会いを通して、コロナ禍においても日々新たな発見をし、「個」ではなく共に生きていると実感できる家です。

これが私の「家の中の出会いの場所」です。



佳作

Book Station ～「本」と「人」との出会い「本育」の誕生～



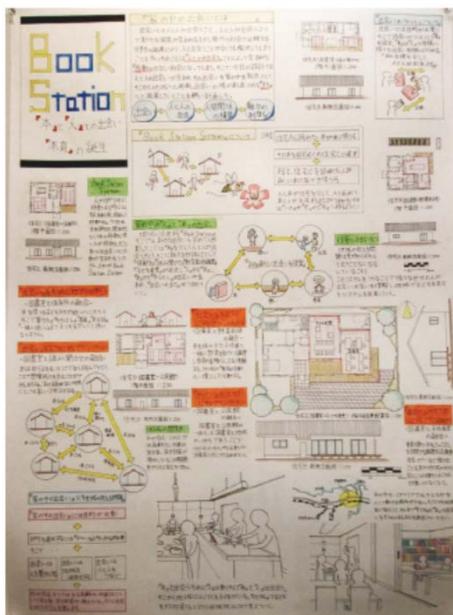
鶴崎工業
芦刈 翼

設計主旨

『家の中の出会いとは』

出会いとは人と人が出会うこと。人と人が出会うことで新たな発見が生まれる。しかし現代の社会では、さまざまな分野の発展により、人が出会うことがなくても解決してしまうことも多い。そのことは『人と人が出会う』ことによって生まれる「感動」のない社会になってしまう。

そこで、今日の設計では人と人との出会いが生まれその出会いを家の中を起点としてそこから地域へと発展し出会いの場が創造される「まち」へと発展していくことを願い計画した。



佳作

文化と人がつながる家



大分工業
後藤 花音

設計主旨

由布市庄内町には『庄内神楽』があり小さなころから誰もが親しんできました。

毎年行われる公演はもちろん、稽古場や近くの高校から空が薄暗くなると微かに聞こえる演奏が庄内町を活気付けてくれます。

現在、コロナ禍によって、毎年子供からお年寄りまで幅広い年齢層の人たちが楽しみにしている公演会もなくなってしまい、庄内町の活気が薄れているように感じます。

そんな中だからこそ庄内町に活気を取り戻したいと思い、人に会わなくても町中に演奏を届けることで地域の方々と繋がる家を設計しました。

またコロナ禍が終わった後には、地域の方々が気軽に足を運び公演だけでなく、練習風景も楽しんで見れるようになっています。



佳作



日田林工
久保 柚世

設計主旨

私の考えた住まいは「思いを繋げる家」です。家の中で会いたい、話したい、過ごしたいという「思い」を形にするために、すべての部屋を渡り廊下で繋げました。家の形状を円柱にするので、隅の無い丸く温かい気持ちで生活できるように意識しました。家族が集まる機会の多いリビングからどの部屋にもすぐいけることで、家族が繋がりやすい空間を設計しました。

至福のひと時 思いを繋げる家

どんな場所においても会いに行きやすく、また見えやすくするため、リビング周辺の部屋と部屋同士も渡り廊下で繋ぎ、その渡り廊下のドアをガラスにすることで奥の方まで様子をうかがえるようにしました。

のんびりと過ごせるように家族が集まるリビングを広く設計し、また屋根を片流れにすることで高さに十分な余裕を持たせ、窮屈さを感じさせないようにしました。天窗を作ることで十分に光が入り、ロフトで洗濯物を干すことができます。

この住まいは湯布院の塚原高原に建てます。

家族がのんびりと過ごすため、この場所に決めました。

部屋から由布岳が見え、夜は星空を楽しめるのです。

建物の中庭ではこの景色を楽しみながら、子どもたちが遊ぶ姿を親が見守ることができます。

また、3つある中庭の一つには、窯を設けていますので、火を囲みながら自然の良さに出会える住まいになっています。



佳作



日田林工
島崎 蓮太

設計主旨

今回のテーマを考えるにあたって私は日常生活で普段聞きなれている“音”に注目して考えてみました。日常生活の中にはさまざまな音が溢れています。最近、家にいる時間が長くなり、自宅に一人っていると物音ひとつなく静か

で日本の防音設備はすごいと思う反面、とても寂しいと感じました。そこで今回の住宅を考える中で、部屋を間仕切り防音するのではなく、あえて開放的にすることでさまざまな“音”と出会い安心して過ごせる家を考えました。

この形にした理由は、それぞれの場所で行ろいろな音を聞くことができるからです。

北東では水に関する音をイメージしました。屋内では、風呂の音やキッチンで皿を洗う音、屋外では、池で魚が泳ぐ音や水の流れる音などがあります。

南東では子供たちの元気な声をイメージしました。子供部屋を配置し、屋外では手作りした遊具で遊ぶ子供たちの声があります。

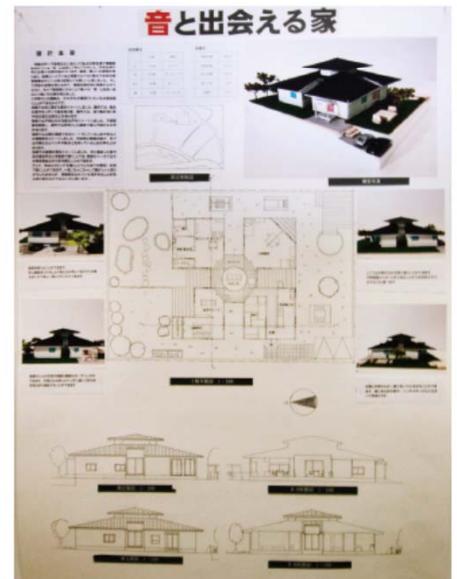
南西では父親の趣味であるDIYをしているときや車などの機械音をイメージしました。木材加工部屋を設け、外では子供たちとベンチや机などを作っているときの声などが

音と出会える家

あります。

北西では自然の音をイメージしました。木に集まった鳥や虫の鳴き声などを寝室で聞くことができ、読書スペースではその音を聞きながら本を読むこともできます。

そして、中心にリビングを置くことでこれまでの音を1ヵ所で聞くことができます。一見ごちゃごちゃして騒がしいと思うかもしれませんが、普段聞きなれている音があることが安心感に繋がるのではないかと思います。



奨励賞

Cube³ house is one box

～1家族、1箱の親密な関係～



鶴崎工業
清水 和馬

設計主旨

家の中の出会いということで、私は生活を通して太陽と出会い、ともに共存する住宅を設計しました。現在は、高气密な住宅が多く、社会や外の環境とつながりが薄く屋内と屋外に大きな隔たりを感じる人が多い。

そこで私は動物としての本来持っている感性や自然とのつながり（出会い）を

大切にしたいと考え設計しました。朝、東から太陽が昇り住宅に光が差し込み一日が始まり、夕方は西に太陽が沈み一日が終わる。

この住宅は、そのような太陽との出会いを大切に、人がより自然の環境を楽しみながら、その恵みを楽しみながら、その恵みを受取り、家族の営みが行われる。その中で人に欠かせない水が生活に潤いを与える。

